

2014年度湘南藤沢学会「研究助成基金」成果報告書

総合政策学部1年 大倉百理子

1. 活動概要

活動組織名：じゃぱじゅけーしょん

活動日程：2015年1月～2015年4月以降も続行

活動場所：湘南台小学校

参加者：総合政策学部2年大川瑛里 総合政策学部2年 新居可奈子 総合政策学部1年 大倉百理子

2. 活動内容

日本に住んでいる外国籍の児童にとって、コミュニケーション言語としての日本語は、日々の生活のなかで学ぶことができる。しかし、学習言語としての日本語を日々の生活の中で学ぶことは非常に困難である。そのため、周りの生徒との学力に大きな差が出来てしまい、日本で進学を希望する外国籍児童にとっては深刻な問題となっている。私たちの杉原由美研究会では、多言語・多文化問題、日本語教育問題について興味を持った生徒が集まっている。そのなかの、特に「日本語教育」をテーマとする問題に比重を置いている生徒3人による、外国籍児童の学習サポートが、今回の主な内容になっている。外国人が多く住む湘南台地域で、特に外国籍児童が多く在籍する「湘南台小学校」の「国際教室」で外国籍児童の学習サポートをする。団体名として「じゃぱじゅけーしょん」という名称で活動している。

3. 活動目的

実際に、日本語を教えることで、我々は外国籍児童と触れ合い、直に日本語教育問題を感じ、今後どのようなことで日本語教育問題を改善することができるか、どのような新しいアイデアを提供することができるかを考えることができる。同時に、日本語学習に追いつけず苦境を感じている外国籍児童に対して、私たち大学生がサポートすることで、先生と生徒という境界線を越え、日本語学習にやわらかいイメージを持ってもらえる可能

性がある。そうすることで、今まで難しく考えていた学習に対しても、違った姿勢で取り組むことが期待できる。

4. 活動成果

シフトを作り、メンバーが交代で湘南台小学校へ学習支援を行った。1月から本格的な活動が始まり、それぞれ異なる生徒を担当してサポートしていた。私は、木曜日に湘南台小学校に訪れ6年生の男の子をサポートしている。彼は、中学校は日本の中学に進学希望で、現在国際教室で、遅れを取り返すために学習に励んでいる。それをサポートするだけでなく、学校の日常や生まれ育った故郷について聞くことで「先生」というイメージだけでなく「友達」という感覚で接してもらうことにも成功した。こうすることで、一緒に勉強するときも様々な質問をしてくれるようになり、口数も増えていったことが伺えた。他のメンバーも同様に、それぞれの形で学生サポートを形にすることができた。

5. 今後の課題

小学校での学生サポートは今後も続いていく予定だ。今回、私たちは初めて小学校で実際に日本語を教えたことで、今までそれぞれに思っていた「日本語教育」を改めて見つめ直すことができた。そして、学生サポートをすることで、外国籍児童と同じ目線で物事を見ることができ、また、どのようにすればより良いサポートができるか考えさせられる機会も数多く得た。今後、このサポートを続けていく上で更なる進化を築きたいと我々は考える。現時点で、小学校のシステム上、我々が教育方針等に意見を反映することは極めて困難である。しかし、小学校のシステムの外でも、外国籍児童をサポートする機会を、我々が率先して設けていくことを目標にしたいと考える。また、2015年度のORFでは、今回の成果を活かし、更に向上した内容を発表するために、努力を惜しまずサポートを続けていきたいと思う。

6. 謝辞

今回のサポートにおいて、教材費の支援を湘南藤沢学会皆様の「研究助成金」から頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。